



2025年1月25日
第127号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

1月25日号

柳条湖事件から始まり15年続いた戦争が、ポツダム宣言の受諾をもって「終戦」とされてから、今年は80年目である。しかし、本当に戦争は終わっているのだろうか。昨年十月二日、宮崎空港において不発弾が爆発する事故があった。2分前に現場を民間旅客機が通過しており、巻き込まれてもおかしくない状況であった。爆発まで至らずとも、不発弾は今でも毎月のように発見されている。

かつて日本は、アジアへと侵出していった。その結果として、朝鮮半島は南北に、中国は大陸と台湾島にそれぞれ分断され、80年経っても分断されたままである。マレーシアの首都クアラルンプール中心部、旧日本軍が捕虜収容所と使用した刑務所の跡地に建設された日系企業の大規模ショッピングモールは店も人影もまばらだそうだ。なぜか。この捕虜収容所では地元住民が日本兵によって虐殺された歴史がある。しかし、その調査もなく刑務所は解体され、加害国の企業がやってきたのである。日本は過去の後ろめたい歴史に対して、謝罪こそした。しかし、そこに至る経緯の公表と、再発防止策の策定という、謝罪とセットで必要なものが完全に欠落している。だからこそ、思われているのである。「あいつらは、また、やる。」と。

一方、加害を行った側も無傷ではない。旧日本軍兵士のPTSDは、国家、企業、家族が共謀して覆い隠した。PTSDは家族内ではときに苛烈なドメスティックバイオレンスとして、企業内ではときに人間関係を支配と被支配で構築するハラスメントという形で発現した。しかし、それらは「忍従」という日本型道徳の強要によって隠蔽され、世代間に連鎖した。ようやく近年になって、問題が「発見」され、旧日本軍兵士のPTSD調査は、今年、ようやく実施される。

我々は平和を希求する国際社会で名誉ある地位を占めたいと宣言している。しかしながら、自らが行った戦争の処理は途上のまま、戦争を知らない世代に引き継がれた。だが、歴史は我々と共にあり、責任を負うのである。絶えず学び、考え、未来に向けた実践をしている。そして再び戦争の惨禍を起こしてはならない。ひとたび戦争を起こせば、戦闘は終わっても、戦争は終わらないのである。(D・F)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。